

農山漁村地域力発掘支援モデル事業の概要

Outline of MAFF's rural power support model project for rural village activation

宗田 功*

MUNETTA Isao*

1. 背景

農林水産業と農山漁村は、食料の安定供給はもとより、国土や自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の継承といった多面的機能の発揮を通じ、国民の暮らしにおいて重要な役割を担っています。農林水産業を持続的に発展させ、農山漁村の活性化を図ることは、地域を再生し、国民の生活の安定向上を図る上で不可欠です。

このような課題の中、農山漁村の活性化に向けて、農林水産省では、全国の農山漁村の現場における農業者や関係者の方々との意見交換などを踏まえて、平成 19 年 11 月に「人づくり」「農山漁村集落の再生」「地域経済の活性化」を柱とする「農山漁村の活性化のための戦略」をとりまとめて公表しました。その中で、活性化を図るためには、「地域の人材と、農林水産物や伝統文化をはじめとする地域に存在する有形無形の素材」を「地域力」として十分活用することが重要と位置づけました。

2. 事業の概要

農山漁村においては、人口の減少や高齢化等により、その活力低下が懸念されており、農山漁村の活性化を図るため、既存の枠組みを超えた新たな取組が必要となっています。すなわち地域住民や都市住民、NPO、企業などの多様な主体を地域づくりの新しい担い手として捉え、これらの協働により、農山漁村地域の持続的な発展の基礎をなす「農山漁村生活空間」を保全・活用し、持続可能で活力ある農山漁村を実現するモデル的な取組を支援することが活性化への起爆剤になると考え、平成 20 年度新規事業として「農山漁村地域力発掘支援モデル事業」を創設しました(図 1)。

本事業は、地域のリーダーとなる人材の育成、祭りや伝統・文化等の保全・復活による農山漁村集落の再生、子供たちの農山漁村における宿泊体験をはじめとした都市と農山漁村の交流の促進等に資するため、全国約 300 地区を採択し活性化のモデルとなるようその活動を支援します。事業のポイントは、地域の資源をどう活かすか。どのような活動主体が、どのようなプロセスで集落の再生や経済の活性化を達成していくのか。それぞれの地域で自ら考え行動することが重要であり、そして地域の取組が持続的な活動として自立できるよう国や民間団体が支援することとしています。

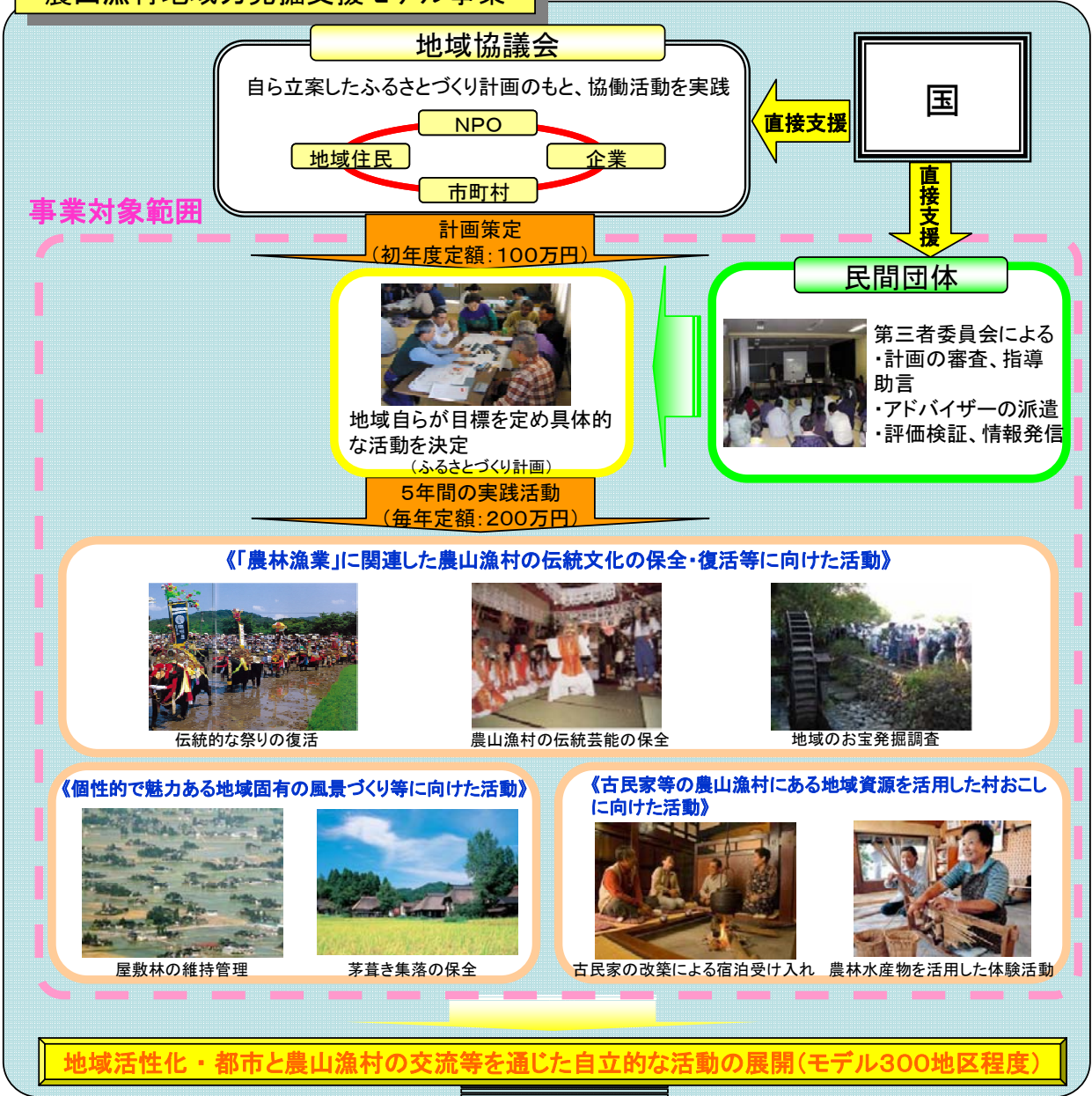
とくに、地域活動主体の新たなタイプとしては、最近の事例から、集落間の連携、大字・校区単位における農林漁業以外の分野との連携、市町村全域における直売所等の機能集団の連携などが見られます。いずれの場合も多様な主体の参画を得て活性化への取組を本格化させており、取組開始から自立して安定的な活動に至るまで約 10 年前後を要するケースが多いことから、本事業では、計画の策定、毎年度の実践活動、毎年度の評価を行いながら 5 年間の活動助成を行い、その後は自立した活動として 5 年間の活動報告を求めています。

農林水産省としては、今回のモデル事業を実施することで、それぞれの地域でふるさとの良さを再発見され、地域が一丸となった新たな活性化への取組につながることを期待すると同時に、支援する約 300 地区の活動の分析・評価を行うことにより、農山漁村の活性化のための体系的な施策の構築に役立てていきたいと考えています。

*農林水産省農村振興局、*Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries, Rural Development Bureau,
キーワード： 農村振興、モデル事業、直接支援

地域住民や都市住民、NPO、企業等の多様な主体の参画のもと、農山漁村地域の持続的な発展の基礎をなす「農山漁村生活空間」を保全・活用し、経済活動の活性化や都市と農山漁村の交流等を通じた持続可能で活力ある農山漁村を実現するモデル的な取組を直接支援する。

ふるさと 農山漁村地域力発掘支援モデル事業



持続可能で活力ある農山漁村の実現

(美しい農山漁村景観、伝統芸能の復活、地域ブランドの確立等)

ふるさと
図1 農山漁村地域力発掘支援モデル事業のイメージ